

2019年9月14日

2019年度東野高等学校同村会総会

議 案 書 (採択済)

於：東野高等学校活動会館

基 調 報 告

会 長 遠 山 尚

同村会会員の皆さま、ご苦労さまです。同村会は、本年3月に卒業した32期生を新会員に迎え、会員数が9,900名を超え、2020年には1万人を超える会員数となります。その会員を基とした当会は、「卒業生・在校生・東野高等学校のために」という目的に沿うべく2018年度も活動をしたいと望んで参りました。

会員の皆様に同村会の活動を理解・応援していただけるよう、同村会のさらなる発展につながる実り多き総会にしたいと存じますので、本議案書を基に、闊達な意見交換をして戴きたくお願いする次第です。

2018年度の活動は、近年において一番反省点の多い活動年度となってしまいました。まず、本会活動の根幹として役員会の開催が重要となりますが、2018年度は、昨年度と同じく9回の役員会が開かれたものの、昨年の議案書において10回以上の役員会開催と、細部に至る課題検討を行うことを目標としながら、納得のいくような課題検討には至っていないことが反省点として挙げられます。

また、収入源の検討と支出規定の検討が不十分であったことも反省点として大きな課題となっております。

現在、同村会は、永年会費を徴収しておりますため、皆さまに別途の会費を頂くことはありませんが、これまでは、同村会の活動や運営を活性化するため、収入を超えた支出予算案を提示し、貯蓄からの支出もしておりました。

そのため、一定程度の同村会の活動と必要な支出の目処が経ったことを鑑み、少しずつでも収入を得られる方法の検討と支出規定の検討を2017年度より活動予定に挙げておりました。

しかし、同村会グッズの製作・販売等の検討や支出規定についても、議論をするに至らず、あえて支出関係での意見交換が出来たことと言えば、会報に掲載しておりますアンケートにありますように、バレー部からの要望である、バレーネットの支柱の寄付を検討しておりましたが、現段階ではペンディングとなっております。

また、同村会としては、昨年秋の台風被害を鑑み、学校に対して、現金での寄付が可能となるよう、寄付用の基金を開設し、会報で各卒業生に呼びかけておりました。しか

し、基金の集まりも少数に止まっており、現金での寄付ができるには、どの程度の日数を要するか想像できない状況でもありますところ、現段階での寄付者の気持ちもありますため、寄付金についての出納を明確にし、継続的な寄付をお願いしていきたいと考えております。

このような活動の根幹である役員会の開催は、2019年度においてこそ、年に10回以上の役員会開催を目指し、活動内容に沿ったより細やかな課題検討をしていきたいと考えております。検討すべき課題としては長期的課題も多く、会議の開催と会議の長時間化の問題等、ボランティアである役員の負担に直結しています。また、そのような状況下で、次世代への役員の引継ぎは特に大きな課題であり、役員の負担軽減、それに替わる策の検討等、容易な世代交代が可能になる形態を検討していかなければならないとも考えております。

さて、2018年度と同村会における大きな反省点についてご報告します。

まず、本来であれば本総会の案内と共に会報をお手元にお届けすべきところ、本年度は会報の2回の発行ができずに終わってしまったことです。

会員の皆さんに、少しでも多く同村会からの情報をお伝えしたいと、年2回の発行を目標とし、本年度も発行をすることを活動予定としておりましたが、会員名簿や会費の受領が滞ったことから、発行を断念せざるを得ない状況でした。

次の反省点としては、新会員となる3年生との懇親会の開催ができなかったことです。

在校生にとって、同村会を知っていただく機会が乏しく、文化祭だけ参加しているというイメージになってしまわぬよう、懇親会の開催を予定しておりましたが、学校との日程調整がうまく行かず、懇親会の開催を断念せざるを得ませんでした。当会を知っていただくために、2019年度も懇親会の開催にトライしたいと考えております。

2016年度、初めて、先生方との親睦会を開催し、とても有意義であったことから二年度にわたって予算計上をしておりましたが、2018年度は、その機会をつくることも検討をすることもできずに終わりました。

私たちは、先生方の思いや活動をあまり知る機会がありません。また、先生方にとっても、同村会がいったいどのような考えのもと、どのような卒業生が活動を担っているのか等を知っていただく機会もあまりありません。

現役の先生方とのコミュニケーションを密にすることで、同村会を周知していただき、

その活動に理解を深めてもらう必要を感じていることは言うまでもありません。役員が教職員の方々と定期的に交流を深めることは、結果として同村会が、東野高等学校を中心としたコミュニティーを支え・活性化していく一端を担えると考えておりますため、今後の継続の必要性等から、2019年度も予算計上をしていきたいと考えております。

次に、継続されている活動報告となりますが、不明会員を減少させる活動として、同期会の開催等を各期に広く呼びかけたいと思います。同期会は、不明会員の増加を食い止めることができると感じております。また、中長期計画として、2020年に300名超の大同窓会を計画し、それに向けた検討を役員会で継続的に討議しておりますが、2018年度より、大同窓会に向けた予算を計上し、より多くの同期会等が開催されるよう呼びかけをしております。

しかし、同期会の開催は1期生のみと、残念な状況となっております。同村会は、後にも記載しますが、同期会のお手伝いもしておりますので、同期会を開催したいとお考えになれる方は、是非、同村会にお問い合わせ下さい。

同期会とは異なりますが、4月27日に、東野を基とした有志の会が所沢で開催され、同村会からも役員が数名参加し、来年の大同窓会に向けての宣伝は、参加されていた不明者リストに載っている方の連絡先の確認もでき、不明者減少にも繋がりました。

既にお亡くなりになった卒業生もいらっしゃいますが、ご事情で、郵送物の発送停止を希望される方もおり、約3,000名の住所不明者等がいるのが現状です。

メールやFAXにて住所変更のご連絡を下さる方もあり、宛先不明で戻る送付物が少しずつ減少はしているものの、不明会員自体を減少させるまでには至っておらず、引き続き皆さまのご協力が必要です。皆さまには、会報が届いていない同窓生に対し、同村会へFAXやメールで新住所を連絡するよう促して頂きたいと思います。

先にも記載したように、同期会の開催は会員情報の補充にも繋がることから、同村会は、同期会のお手伝いとして、案内状の発送だけではなく、2018年度より、案内状の作成や会場手配のお手伝いも致しますので、同期会を希望される方は、是非、同村会に御相談下さい。

そのほか、卒業記念品の配布や、卒業式リハーサルにおける同村会のアピール等の活動予定につきましては、従前通りの活動ができましたことを簡単ではありますが、ご報告いたします。

最後に、ここ数年の基調報告にも記載しております継続的な大きな課題として、同村会存続のための役員・事業の継承問題があります。1人の役員が担うものが大きいと、諸般の事情でその役員が退任したことで、同村会が立ちゆかなくなる等の事態は避けなければなりません。そのため、可能な限り、作業の外注化等、役員負担軽減を試みておりますが、まだまだ充足はされておらず役員・事業の継承もさることながら、同村会の存続と運営が、役員の好意にのみ成り立っているという危うさがあります。

また、学校からも、双方の要請についての文書化や、学校会計についての規制が厳格になっていること等の影響から、公的な会計処理を含むしっかりとした組織作りを望む声を戴いておりますことから、一組織としての同村会をどのように考えていくか…、役員が交代した場合でも事業が滞ることがないように、継承問題を常に意識し、近年の潮流となっている「同窓会の法人化」について討議をしていきたいと考えております。

法人化によるメリットの一例としては、本議案書にもある決算報告等、税理士等の専門家にアウトソースすることが容易になり、結果、学校会計との差別化ができることで、同村会の経理処理による問題で学校に迷惑をかけることもなく、経理担当者の負担を軽減できることが容易に想定できます。

預貯金についても、会長の交代により、逐次名義変更が必要になりますが、法人であれば代表者の交代等による問題は起こり得ません。

また、学校に対しても、会費徴収に対する手数料等、対価を支払うことも可能になり、双方にとってプラスになる可能性が高いと思われます。

そのため、メリット・デメリットを含め、継承問題や学校との関係性の一環として、法人化を視野に入れた検討をしていきます。

以上のように、本議案書において、2018年度の活動報告並びに2019年度の活動方針等をご提案し、会員の皆さまにおかれては、同村会の活動に対し、さらなるご理解・ご協力をいただけるようお願い申し上げます。

同村会は、引き続き、多方面において活動を支えてくれる方の人的充足を図りつつ、活動の場の拡充をまいります。

以上

第1号議案 2018年度活動報告

2018年度の同村会の活動は、採択された議案書の活動方針のもと、基調報告にありますように下記のような活動を行いました。(順不同)

昨年度のような新会員となる3年生との懇親会が開催できず、同村会役員の顔を知ってもらうこと等ができなかったことはとても残念な結果となりました。

2018年の盈華祭では、風鈴アーケードのお手伝いや第一の門の装飾のお手伝いも行っていました。その他、アイスの販売と卒業アルバム展示、来校者への休憩所の提供等で参加をいたしました。

その他、反省点として御報告しましたように、教職員有志との懇親会や、会報の2回発行ができなかっただけでなく、経費にかかる各種の検討ができなかったこと等もあり、今後も積極的に取り組むべき課題となりました。

会報については、新卒業生への直接配布もできなかったことから、学校との連携強化が必要であると考えております。

記

- 1 役員会の定期的開催
- 2 会報の作成・発送
- 3 32期生卒業記念品作成及び配布
- 4 32期生卒業式リハーサルでの同村会アピール
- 5 各期同期会案内発送
- 6 2018年度総会案内発送
- 7 盈華祭参加(在校生や実行委員会との交流)
- 8 会費以外の収入源の検討及び支出規定の検討
- 9 役員継承問題の継続討議
- 10 大同窓会等企画準備

以上

第2号議案 2018年度会計報告

別紙、東野高等学校同村会 平成30年度決算書記載のとおり

第3号議案 2018年度会計監査報告

別紙、東野高等学校同村会 平成30年度決算書下部記載のとおり

以下余白

第4号議案 2019年度新役員選任

2018年度役員

会 長 遠 山 尚 (1)

副会長 伊 達 亮 介 (3)

経 理 小 池 直 美 (1)

経 理 下 津 郁 也 (23)

監 査 根 本 章 (3)

菱 沼 博 之 (1)

北 澤 理 恵 (3)

毒 島 純 (3)

羽 田 寿 孝 (3)

高 橋 古 志 夫 (4)

黒 澤 豊 (9)

手 嶋 毅 (9)

2019年度役員 (役職は後日互選)

小 池 直 美 (1)

遠 山 尚 (1)

菱 沼 博 之 (1)

北 澤 理 恵 (3)

伊 達 亮 介 (3)

毒 島 純 (3)

羽 田 寿 孝 (3)

根 本 章 (3)

高 橋 古 志 夫 (4)

黒 澤 豊 (9)

手 嶋 毅 (9)

下 津 郁 也 (23)

() 内は卒業期

第5号議案 2019年度活動予定

2019年度の同村会は、下記の活動を行う予定です。(順不同)

まずは、盈華祭において同村会としてアイスの販売や卒業アルバムの展示、休憩所の提供です。

好評だった卒業記念品の配布、ここ数年行っている2018年度新会員へのアピールと会報の新会員への同時配布も引き続き予定しております。

第6号議案の予算案も併せて御確認をいただきたいのですが、通信費等は、年々増額が予測されますが、2019年の夏号の会報が発行できなかったことから、発行時期の議長性を含めて経理処理上、本年度支出に入れております。

その他、基調報告にも記載しましたように、教職員との懇親会の再開、新会員との親睦会、本会役員の継承問題についての継続的討議、そして大同窓会に向けた具体的な準備をしていきます。

記

- 1 役員会の定期開催
- 2 会報の作成・発送
- 3 教職員有志との懇親会
- 4 33期生との懇親会
- 5 33期生卒業記念品作成及び配布
- 6 33期生卒業式リハーサルでの同村会アピール(会報の直接配布)
- 7 各期同期会のお手伝い(会場・案内作成・発送等)
- 8 2019年度総会案内発送
- 9 盈華祭参加(在校生や実行委員会との交流)
- 10 新たな協力委員の募集、同村会のバックアップメンバーの拡充
- 11 会員の経験・職業等の情報収集
- 12 役員継承問題の継続討議
- 13 会費以外の収入源の検討及び支出規定の検討
- 14 同村会法人化等の検討
- 15 大同窓会企画準備

以上

第6号議案 2019年度予算案

①収入の部(単年度分)

	費目	予算額
1	会費 (32期×359名+33期×約350名×¥7,000)	¥4,963,000
2	受取利息	¥400
3	催事収入	¥60,000
4	寄付金	¥20,000
5	雑収入	¥5,000
	計	¥5,048,400

②支出の部

	費目	予算額
1	事務費 (事務用品、消耗品、封筒等)	¥110,000
2	通信費 (電話・プロバイダ・ドメイン・会報送料等)	¥2,100,000
3	催事費 (学園祭《含既済》・卒業記念品購入費)	¥250,000
4	印刷費 (会報・総会案内等)	¥500,000
5	会議費 (交通費・会場使用料)	¥90,000
6	備品購入費	¥50,000
7	作業外注費	¥100,000
8	寄贈品・販売品等購入費	¥50,000
9	修繕費(または修繕積立金)	¥50,000
10	雑費	¥10,000
11	2020大同窓会準備	¥600,000
	計	¥3,910,000

東野高等学校同村会
平成30年度決算書

2018/08/01~2019/07/31


収入	金額	予算額
会費	0	2,450,000
受取利息	43,398	400
催事収入 (盈華祭売上)	60,420	50,000
その他収入	5,360	5,000
寄付金	20,000	
収入合計	129,178	2,505,400
前年度繰越金	10,739,542	
総収入合計	10,868,720	

支出 ()内は、主な内容	金額	予算額
事務用品費 (宛名ラベルなど、消耗品)	197,314	90,000
通信費 (電話・FAX・ドメイン・会報等送料)	1,024,156	1,700,000
催事費 (学園祭・卒業記念品購入費・周年記念費)	264,209	250,000
印刷費 (会報・学祭案内)	340,465	400,000
会議費		
役員交通費	75,880	130,000
備品購入費	0	50,000
外注費	73,655	50,000
寄贈品等購入費	0	50,000
修繕費+雑費	0	60,000
2020大同窓会準備(口座内積立)	0	300,000
支出合計	1,975,679	3,080,000

翌年度への繰越額	収入合計	支出合計	繰越額
	10,868,720	1,975,679	8,893,041

繰越金内訳	
埼玉りそな銀行 普通	20,000
埼玉りそな銀行 定期	6,211,460
ゆうちょ銀行 普通	2,625,662
ゆうちょ銀行 定期	0
現金繰越高	35,919
合計	8,893,041

上記の通り、会計報告いたします。

会計 小池直美 

監査の結果、相違ありません。

監査 根本 章 